

5月の消費者物価指数

生活必需品の値上がりが続いています（表）。総務省が24日発表した5月の消費者物価指数で、食料・光熱費・医薬品など生活に欠かせない「基礎的支出項目」は前年同月と比べ4.7%上昇しました。

生活必需品4.7%値上がり

輸入資源や輸入食料品の価格は高騰しています。原因は、世界の景気回復、ロシアのウクライナ侵略、アヘンミクスによる異常田安などです。輸入物価の上昇が国内物価に波及しています。

食料品は前年同月比4.1%の値上がりとなりました。前月と比べても0.4%上昇しています。輸入に依存する小麦など穀物価格の高騰で、パンや麺類の価格が上がっています。パンの価格は前年同月比8.2%上昇

し、前月比でも0.3%高くなりました。

生鮮魚介野菜も燃料費の高騰や漁獲量の減少で生鮮魚介は前年同月と比べ12.2%値上がりし、天候不良などの影響で生鮮野菜も13.1%値上がりしています。キャベツの価格は1.4倍に、たまねぎは2.3倍に、なりました。

エネルギー関連の値上がりも引き続き深刻です。前年同月比で電

代は17%、ガソリン価格は13.1%上昇しています。

食料品とエネルギー以外の価格も上がっています。電気冷蔵庫（15.8%）やエアコン（11%）など、家庭用耐久財は7.4%値上がりしています。カメラ（12.5%）やテレビ（5.4%）など、教養娯楽用耐久財は3.3%の値上がりです。教科書（4.6%）や学習参考教材（3.4%）の価格も上がっています。

政府・与党は「エネルギー価格と食料品の値

策では不十分です。

効果的対策は消費税減税

一方、外食や旅行などの「選択的支出項目」は0.1%の上昇にとどまります。値上げラッシュは生活必需品を中心に起きていることを示します。

低所得者に被害消費に占める生活必需品の割合が大きい低所得者ほど、甚大な被害を受けているのが現実です。「基礎的支出項目」が4.7%上昇しているということは、消費税率を5%分上げたと同程度の負担増といえます。最も有効な対策は、すべての課税品目を値下げする効果を発揮する消費税5%への減税です。

値上がりしている主な品目（5月）

分類	前年同月比(%)
食料	4.1
パン	8.2
食パン	9.4
麺類	5.1
スパゲッティ	11.3
中華麺	11.2
他の穀類	5.4
小麦粉	15.4
生鮮魚介	12.2
マグロ	16.6
アジ	8.2
サケ	15
ブリ	16
タコ	16.1
アサリ	20.2
生鮮野菜	13.1
キャベツ	40.6
ハクサイ	35.4
タイコンギ	22.7
タマネギ	26.5
タマゴ	125.4
油脂	32.8
食用油	36.2
マーガリン	11.5
調味料	3.1
しょう油	10.1
マヨネーズ	25.4
ジャム	6.2
パスタソース	12.9
調理食品	3.4
ハンバーグ	9.5
調理カレー	11.4
飲料	11.2
紅茶	15.6
コーヒー豆	18.7
家庭用耐久財	7.4
電気冷蔵庫	15.8
ルームエアコン	11
室内装備品	3.9
照明器具	12.2
教養娯楽用耐久財	3.3
テレビ	5.4
プリンタ	8.6
カメラ	12.5
ノート型パソコン	1.4
教育	0.8
教科書	4.6
学習参考教材	3.4
電気代	18.6
ガス代	17
ガソリン	13.1
宿泊料	5.2

総務省「消費者物価指数」から作成